

LEFシリーズが仕事内容を変えた？ シルク+レーザー+UVが生む高品質

オバタ工芸の作業場に並ぶLEF。使って感じたのは、「突発的な故障が少ないこと。メンテ費用がほとんどからない」と小畑氏。プリント品質にも満足で、「アニメキャラは色再現や画質に関してシビアですが、サンプルを出して『NG』と言われたことは一度もない」そうだ。



シ

ルク印刷、レーザー加工、厚物UVプリント。3つの製法を活用し、互いの欠点を補って長所を活かしたモノづくりをおこなっているのが、(株)オバタ工芸(埼玉県草加市)だ。

創業は昭和54年。プラスチックや金属へのシルク印刷を得意としてきたが、時代の流れで大量ロット注文が海外へ流出するようになった。シルク印刷一本では厳しいと判断した同社は、12年前にレーザー加工機を導入し、アクリルカットの仕事を始めた。受注する仕事はキーホルダーなどのカットで、忙しい時期には数万個単位の仕事を受注。これに対応すべく、同社はレーザー加工機を増設し、計3台でアクリルカットの仕事をこなすようになった。

転機となったのは、イタリア・SEI社のCCDカメラ付きレーザー加工機「ドラゴン」の導入。この機種はアクリルにプリントし

た絵柄の輪郭をカットできる機能が搭載されている。それを頼りにした業者が、オバタ工芸にプリント後のアクリルカットをオーダーするようになったのだ。

「印刷後のアクリル板をトンボ読みして切る仕事が一気に増えたので、これからUVプリントが主流になると感じた」と、同社主任の小畑一孝氏(37)。その時流を掴むため、3年前に導入したのが、ローランドディー・ジー(株)の厚物UVプリンター「LEF-12」だ。

LEF導入で急増した プリント&カットの注文

以前からUVプリンターの存在を知っていた小畑氏は、周囲の同業者が他メーカーの厚物UVプリンターを使っている様子を見ながら、自社でも導入するタイミングをずっと伺っていた。その時、発売直後だった「LEF-12」に、オバタ工芸が目指す新たなアクリ

company profile

株式会社オバタ工芸
〒340-0004
埼玉県草加市弁天4-17-11
<http://obata-print.com/>
【事業内容】
◎各種アクリル製品のレーザー加工と各種印刷加工
◎スマホソフトカバーへの印刷加工
◎アクリル封入用シルク印刷
◎各種ノベルティグッズのレーザー加工と印刷加工など



④小畑一孝氏とLEFシリーズ。

ル加工の可能性を感じたと言う。

小畑氏は、「LEF-12はプリント品質がとにかくキレイ。ドット感がなく、淡いグラデーションも繊細に表現できるんです」。

さらに、「弊社はアクリルの曲げ加工を得意としています。アクリルのプレスレットなどは1日に2〜3000本曲げることができ。そうした曲げ加工に耐えられ



オバタ工芸の製造システム。上写真はLEF-12が2台、LEF-20が1台の計3台が並ぶ作業場。右上は工場に設置されたCCDカメラ付きレーザー加工機「ドラゴン」。右下は長年使われてきたシルク印刷機。下はアクリルキーホルダー製作の様子。左から、LEF-20でアクリルにプリント。「ドラゴン」でトンボを読んで輪郭をレーザーカット。離形紙を剥がして完成。カットの断面が滑らかなので、仕上げが必要ない。



入で内製が可能になり、コストや納期の問題も解決。既存の取引先からプリント、アクリルカットまで一括した注文が急増した。その結果、日本を代表するアーティストのライブグッズや人気アニメのキャラクターグッズなど、様々な注文が舞い込むようになった。ライブやキャラクターグッズに特化した同社の顧客は、主に広告代理店や企画会社など。営業活動は一切行っていないため、PRはホームページのみ。自社の設備や技術を解



るほど『軟性』のあるインクが欲しかった。

「LEF-12」を導入したことで、オバタ工芸の仕事内容は一変した。以前から要望のあった「アクリルへのプリント&カット」の仕事が増えてきたのだ。

これまで外注かシルク印刷で対応していたアクリルへのプリントだが、多色やグラデーション表現、小ロット生産を求められると、コストや納期の面に対応しきれなかった。しかし「LEF-12」の導

説したサイトを作ったところ、「月に4〜5件は新規の問い合わせがある」（小畑氏）。新規客からの注文も増え、現在では仕事の90%がアクリルのキーホルダーなどグッズ製作になった。

「アクリルへのプリント&カット」の仕事が増加した同社は、昨年「LEF-20」を追加で導入。それでも間に合わなくなり、最近になって「LEF-12」をもう1台追加。今では計3台のLEFで仕事をこなしている。

シルク印刷の技術でUVの表現力が広がる

同社の特徴は、アクリルグッズ製作のほとんどにレーザー加工、シルク印刷が関係している。LEFでプリント後にレーザーで切り抜くのはもちろん、その上から金や銀などの特色をシルク印刷することも珍しくない。小畑氏は、「シルクもレーザーもLEFも混在しています。LEFがあってもシルクは必要。むしろ、これまでシルク印刷で培ってきた技術を生かすことで、UVプリントの表現力が大きく広がっています」。

同社では、支給されたデータをただアクリルにプリントするだけでなく、LEFに搭載されている様々なカラー設定を駆使して、ク

ライアントが最適と思えるプリント品質を実現している。

「嬉しいのは、クライアントの先にある、色表現や画質にシビアな目を持つお客様から『印刷がとてもキレイ』と言ってもらえること。高品質な商品を提供し続けていれば、自然と仕事は集まってくるから」（小畑氏）。

その高品質を支えているのは3台のLEFと、同社が長年培ってきたシルク、レーザーカットの技術なのだ。

Imagine. Roland®
VersaUV
LEF-20



□仕様 LEF-20

標準価格：2,980,000円（税別）
寸法：W1202×D962×H549mm
重量：110kg
設置可能材料：
最大W538×D360×H100mm／最大5kg
印刷範囲：最大W508×D330mm
印刷解像度：最大1440 dpi
使用インク：ECO-UVインク
（C、M、Y、K、WH、GL）

※印刷時に発生する臭気や揮発性物質を活性炭フィルターで除去する専用脱臭装置は別売り。

【問い合わせ】ローランド ディー、ジー、（株） コールセンター
☎ 0120-808-232
URL www.rolanddg.co.jp/versauv/